

県女第一期生より、皆実高校生に至る六拾五年の歴史に連なる者。また今後、この同じ流に連なる者、手をつなぎ足音高く歩もう。足音高く声を揃えて元気に歩もう。我等は、皆実有朋会員である。歩もう、歩もう、力強く。



発行所
広島市出汐町
広島皆実高等学校内
社団法人
皆実有朋会
印刷所
四反田印刷株式会社
翠町電⑤2024・5017

おめでとう——きょうからあなたは皆実有朋会員です——御卒業

きょう皆実高校を卒業されるみなさん、仲良くしましょう——



本会理事長
熊田ムメさんが
あなたに
送るこぼ

お祝いの言葉

熊田ムメ

おめでとう!! 御卒業。
まず、何を考えますか？
胸をはって大きく呼吸をして「われ、ここにあり」でしょう。大地を踏みしめて「われ、ゆかん」でしょう。
おめでとう。その意気。それで、あなたを試し、培い、そして、成長を期して下さい。愛されていることを信じよう。決して、独りぼっちでないことを信じよう。この信念はあなたを守るでしょう。
卒業証書を手にして
ありがとう。まず自分に礼をいしましょう。
両親に。先生に。友達に。……..
折にふれ、母校をたずねて下さい。そこには同窓会もありますよ。

“同窓会館設立へ” 第一回建設委員会開かる

同窓会館を設立すること
は四十年程度総会ですでに決定されているが、未だその機熟さずという状態で一年余を経てしまったが、いよいよ本年から具体的活動の第一歩を踏み出した

一月二十八日、第一回の建設委員会が日立ファミリースターで開かれた。折からの激しい雨にもかかわらず八十名の会員が参加会場はいっぱいで、文字通り、ヒザをつきあわしての話し合いとなる。

議長には皆実一期の太敷氏が選出された。今日話し合うことがらについて理事からの説明がある。同窓会館設立の場所、使用目的と構造、規模と費用、資金募集と金額、その他。

初会合で、全くの白紙状態から始まるため、討論の基盤がわからない。そこで、昨年同窓会館を設立した福山養陽高校の場合を視察してきた理事より報告され、一つのめやすとする。

まず設立場所。第一にあげられるのが旧本館跡。場所的には申し分ない。ただその場合、来年度のインターハイの関係もあって、学校側が運動器具置、便所等の併設を強く要望していることが問題となった。一階を器具置場に、二階以上を同窓会関係ということであるが、賛成もあり、付近が汚れるから何か別のものをという意見も強く、一応おあつけとなる。

使用目的については、在校生の礼法、茶華道室として、同窓生のクラス会、宿泊、料理教室等々の意見が出る。声あり、「使用目的は女性向きのものが多すぎる。男性も忘れないで欲しい。」これは、今後のアイデアと設計次第で利用価値はいくらでも増えるだろう。規模はどの位にするか、募金額にも左右される。現在の会員数は一万二千人、一人から一千円ずつで総額一千万円の割である。寄付金額はいくらまで応じられるだろうか、二千万、三千万では？

仮りに、一人平均三千万円として総工費二千万円とすれば七千人が、三千万円とすれば一万人が募金に応じなければならない。少くとも一口三千万円は必要である。しかし出し難い。一年に千円ずつ入金してもおろ、学割を作ってもくれ音楽会でも開いたら？意見が続出する。

同窓会館を母校の象徴に
工費について、盛んに論議されている時、ある有明時代の卒業生の方が、同窓会館に関して、次のような意味のことを述べられた。果女が現在の皆実高校になったとはいっても、学校の場所も違えば校舎も違う。皆実の卒業生には母校が存在しているが、果女の卒業生が今の皆実高校に母校の姿を見出すことは到底できない。せめて、自分達の手で作らせた同窓会館であれば、果女の卒業生も皆実高校の中に母校を見つけ、心のよりどころとすることができるとは思えないか。そのように考えれば、寄付金の額など問題にならなくなるのではないか。

この言葉に感動したのは決して私一人だけではない。会場は一瞬静かになった。これは値下げ案の出ようはずが無い。

またまた、議論は果てないが、初会合でもあり、会場の制限時間ももせまって来た。次の委員会は二月中に開くこと、今日の話し合いをもとにして、理事会が具体的な写真を用意することを決議して散会した。